

## 人形峠環境技術センター開設50周年記念式典祝辞

平成19年7月28日

原子力委員会委員長 近藤駿介

みなさん、こんにちは。本日は、人形峠環境技術センター開設50周年、誠におめでとうございます。原子力委員会を代表して、日本原子力研究開発機構及び鏡野町並びに三朝町の皆様に心からお祝いを申し上げます。また、この機会をお借りして、このセンターの活動を半世紀にわたって見守り、育ててきてくださった岡山県、鳥取県、そして両町の皆様の高い見識に敬意を表するとともに、これまでに賜りましたご高配に対して心から御礼を申し上げます。

原子力委員会の発足が昭和31年ですから、同時期に開始されたこの地の研究開発活動は、我が国の原子力研究開発の歴史の1ページ目から登場するものであり、しかも、それらはそれぞれがパイオニア精神に基づく挑戦的取組であったゆえに、いくつものページにおいて輝きをはなっているように思われます。

原子力委員会は、先に閣議決定された原子力政策大綱において、今後の原子力政策の目標を、第一に、原子力発電をしてエネルギー安定供給と地球温暖化対策に対し一層貢献させること、第二に、放射線を科学技術、工業、農業、医療等の分野で一層広汎に活用させることと定めていますが、同時に、こうした目標達成のためには、原子力安全を確保し、平和利用への限定を一層明確化し、放射性廃

棄物を安全かつ確実に処分し、人材を育成し、原子力研究開発利用活動とその存在する地域との共生関係を豊かにしていくことが前提条件として重要であるとしています。この点で、本センターが今後、これまでの活動で発生した放射性廃棄物の安全な管理を行いながら、原子力施設の廃止措置にとって重要な安全な解体技術の開発や放射性廃棄物の発生量の削減、有効利用技術の開発に地域社会の皆様のご協力を得ながら、時には共同作業として取り組み、進んで、地域振興にも協力していくことは、こうした前提条件となる活動の在り方に模範を示すものになると考え、原子力委員会としても注目して参りたいと存じております。

ところで、我が国の原子力利用は、現在、試練の時を迎えています。と申しますのは、第一には高レベル放射性廃棄物の処分施設建設を受け入れていただく自治体を公募しているところ、概要調査地区としていくつかの地点があることが望ましいわけですが、いまだこれの決定を見ていないことです。私どもとしましては、安全性が確保されるようにこれが実施できることについて学術的に一定の評価がなされているわけですが、現実に実施していくに当たっては関係者の合意が得られるアプローチで進めていくべきと考えておりますし、この処分は全国民の利益に適うものですから、受け入れ地域の発展のために全国民からお礼の気持ちがよせられるものであることを踏まえて、全国の自治体の皆様に、地域の持続的発展を追求する一つの手段としてご検討を賜りたく、お願いを申し上げていると

ころでございます。

もう一つは、皆様ご高承のとおり、この7月16日に発生した新潟県中越沖地震が、東京電力柏崎刈羽原子力発電所に大きな揺れをもたらし、3号機変圧器における火災の発生や6号機における微量の放射性物質を含む水の漏えい等を発生せしめ、また、6号機においては原子炉建屋の天井クレーンの破損も判明していることです。原子力委員会は、現時点までに把握されている限りにおいては、今回の地震は設計時の想定を上回る大きな揺れをもたらしましたが、運転中の原子炉は全て設計通り自動停止するとともに、原子炉内の放射能を防護する重要な安全機能は正常に作動し、発生した異常事象は施設の安全性に重大な影響を与えるものでも、外部の環境への影響が懸念されるものでもないと理解しています。

しかしながら、想定を上回る地震動が発生したことは、既に女川、志賀発電所でも類似のことが経験されているところ、今回は一部機器が損傷を受けたこともあって、原子力発電所からの送電が長期にわたって停止することが予想されるところでございますから、原子力委員会としては、国や事業者のビジネスリスク管理活動に課題があったと考え、両者は真摯にその改善に取り組むべきではないかと考えています。

私どもとしては、原子力利用に関する事業の公益性に鑑み、その安定的運営を確実にして国民の信頼を確保する観点から、想定外事象の発生に伴う損失を最小化するために、安全の確保に関わるもの

を中心に、絶えず最新の知見の出現に注目して、規制行政に対する国民の信認リスクや安定供給の責任を果たせなくなる事業リスクを十分低く保つ観点からこれの取り扱いを迅速に検討する取組みを行うことを求めてきたにも関わらず、これが十分になされていないと判断せざるをえない状況にあると認識しているからです。

このことを念頭に、私は、本センターの皆様におかれましては、原子力安全の達成のための保安活動・防災活動等を、現実を虚心坦懐につぶさに眺め、そこにあるリスクの同定、分析を行い、対策を立案し、それを実施し、再び新知見を踏まえて評価を行うというリスク管理活動のサイクルを適切に進めつつ、各種の先導的な取組を推進されて、今後とも我が国原子力研究開発利用の歴史に輝く頁を付け加えていかれますことを心から希望するものです。

最後になりましたが、岡山県、鳥取県、そして鏡野、三朝両町のますますのご発展を心から祈念するとともに、皆様にはこのセンターに対して、その活動を有効に活用するべく知恵を尽くしていただくことを含めて、引き続きのご支援とご協力を心からお願いして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。